

Inajin

vol.27
2009 Spring

埼玉県立伊奈学園総合高等学校

同窓会会報誌

伊奈学園の絆は3年間で途絶えるのではなく
同窓会を通した新たな交流が脈々と続いてゆきます
今年も23期生を仲間に迎えることを祝して
さまざまに活躍する先輩を紹介します
みなさんの未来の姿が見えてくるかもしれません

INAGAKU STYLE

憧れの実現に×切はない

宮川 浩明さん 1989年度卒業 役者

photo by TARO TAKESHITA

同窓会会長挨拶 自分探しの旅立ち



伊奈学園同窓会会長
原 雅之「1期4A・芸術(美術)」

突然ですが質問です。あなたの夢は何ですか?「夢」というと大げさに聞こえるかもしれませんが、夢とは「なりたい自分」の事かもしれません。しかし、やりたい事を継続するのは言葉でいうほど簡単な事ではありません。では、どうしたらその夢に近づく事ができるのか?

地球上全ての物質に存在理由や役割があるように、個々の人間も同じだと思うのです。例えば鉄は単体ではモロい物質ですが、クロムとニッケルを化合する事でステンレスという優れた物質に変化します。人も同じように人間関係と生活環境によって自身自身を変化させる事ができるのです。しかし化学変化はプラス面にもマイナス面にも作用しますから、強い意志を持つて選択する必要があります。

自分は何者なのか。大切なのは自分を理解し、ありのままを認めて受け入れる事です。自分自身を知ることが

「夢」を具現化する第一歩かもしれません。君たちの自分探しの旅はまだ始まったばかりです。



思い出写真館
原会長3年生の体育祭クラス優勝でトロフィーを授与されました。

Information 同窓会活動報告

伊奈学園を卒業したらみなさんは同窓会の会員です。母校が同じ仲間として交流できる活動の充実に取り組んでいます。

01 会報誌「Inajin」を送付しています

伊奈学園同窓会では、みなさんに配布した会報誌「Inajin」を制作しています。この春号のほかに年1回、会員の方々のお手元に送付しています。各界で活躍されているOB・OGの情報、母校・伊奈学園のトピックス、同窓会の活動内容などの情報をお届けします。同窓会では、この会報誌を卒業生と母校をつなぐコミュニケーションツールとして充実させてまいります。ご期待ください。また、誌面に登場いただける方も随時募集しています。自薦他薦は問いません。同窓会までお問い合わせください。

02 公式HPとしてウェブサイトを運営

同窓会ではインターネット上にウェブサイトを開設しています。同窓会からの連絡やイベントの告知、伊奈学園と連動した最新の情報など、随時アップしていきます。また、住所変更やメールアドレスの登録、同窓会へのご相談、問い合わせのメールもウェブサイトから受け付けています。

●web
<http://inagakuen.on.arena.ne.jp/>
●e-mail
ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp

03 定例で理事会を行っています

同窓会役員の選出や活動方針などを決めるため、毎年1回の総会のほか、理事会2回を開催しています。卒業時に選ばれたHR理事(各クラス1名)の方は、同窓会と会員のみなさんとを結ぶ大切な役割の担い手となりますので、総会・理事会に出席してください。

04 ホームカミングパーティを開催します

昨年11月、同窓会の設立以来、長年の懸案事項であった「ホームカミングパーティ」を開催することができました。同窓会では、卒業後10年を目途に、同期生が集うイベント企画を考えています。

記念すべき第1回は、伊奈学園の生みの親ともいえる初代校長・渋谷栄次郎先生をゲストに迎え、1〜3期生が高校時代に帰ったようなひと時を過ごしました。

みなさんも「こんなイベントにしたい」というアイデアなどありましたら、同窓会にお知らせください。ホームカミングパーティ以外の提案も歓迎いたします。



11月22日の「渋谷翁と語る夕べ」には懐かしい先生方も参加くださいました。つきなみですが散会前の記念撮影

ツーショット撮影希望者が殺到だった初代校長・渋谷栄次郎先生

05 SNS「mixi」での交流も盛んです

同窓会会員のコミュニケーションツールの一環として、昨年よりソーシャル・ネットワーキングサービス内に「伊奈学園 同窓会公式コミュ」を立ち上げました。

「mixi」では「伊奈学園総合高等学校」コミュニティに5年間で3000人を超える参加者が集まっています。各種オフ会も開催され、世代を超えた同窓生の交流が実現しました。この実績を踏まえ、同窓会でも「mixi」を有効に活用していきたくと考えていますので、同窓会公式コミュにも、ふるってご参加ください。



原会長主催の異業種交流会。第2回は1〜20期生が勢揃いとなりました

06 みなさんの参加あってこそ同窓会です

同窓会では伊奈学園OB・OGが世代を超えて「交流できる場」を目指しています。他校と比べて歴史の浅い伊奈学園同窓会は、まだまだ未完成です。発展途上だからこそ、今までにない組織となる可能性があるともいえます。

伊奈学園に学んだ仲間として、柔軟で個性的な発想を活かし「新しいスタイルの同窓会」を一緒に作っていきませんか? 私たち役員は「知らないオジサン・オバサン」ではありません。十数年前には、みなさんと同じ制服を着て同じ教室で3年間を過ごしました。同窓会では各種活動に参加してくださる会員の方を待っています。みなさんの若い力で、同窓会に新しい風を吹き込んでください。伊奈学園同窓会は開かれた組織です。

STAFF

Editor inChief: 椎原由美子(1期5B・美術)
Producer: (株) スポッティング(溝口敏正/4期1A・語学)
Editor/Writer: 石田陽子(2期1G・理数)
Art Director/Title logotype design: 町田えり子(7期5C・美術)

発行/伊奈学園同窓会
編集/会報誌編集委員会

お問い合わせ

Mail ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp
Web <http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/>

Inajin
vol.27



904A2736

おおみち かなこ

7期生・芸術(美術)／美術部。美術三昧の3年間を過ごし、女子美術大学(デザイン科環境計画専攻)へ。授業内容から卒業後の職業が見据えられず1年で退学。日本工学院演劇科スタッフコースへ転向。

毎日が学園祭みたいでも プロの誇りと厳しさがある

自分の技術を出し切るより
共同作業としての調和が大切

とにかく小さい頃から絵を書くことが大好きだったという大道さん。俳優座劇場の舞台美術部背景係に籍を置いて13年を迎える。

職場の草加工場を訪ねると、表まで出て迎えてくれた大道さんは、絵の具のついた作業着に足袋・雪駄という職人さんスタイル。人懐っこい笑顔とはギャップを感じるほど、男勝りな「仕事人」の雰囲気漂う。

ここでは、俳優座など劇団の舞台セットをはじめ、私たちが何気なく見ているドラマやバラエティまでTV番組のセットも多く手がけている。日々の仕事は、大きな板の彩色や細部の仕上げなど、仕事の流れで内容が変わる。そのスケジュールは「長くて2週間。短ければ2〜



この日はオペラで使われる背景画で細部の仕上げをお手伝い

3日」とハードだ。最近、PCで壁紙など出力する仕事を任された大道さんは「会社にもっと描かせろ」とお願いしていると笑う。そんな大道さんも自分の技術不足を痛感する事も少なくない。「どうやって描いてるの?」とじっくり見て研究したり、真似してみたり。大勢の手が入っていることを感じさせない仕上がりが要求されるのだ。



舞台美術

大道 加奈子さん

WORKING STYLE FILE

おしごと探訪



お仕事DATA

就活 学校は就職先の情報収集に役立ったとか。履歴書に添えたアツい手紙が採用の決め手に。

実際 専門知識や技術がなくても仕事をしながら覚えらる。大工仕事など何でもこなす覚悟が必要。

心得 背景を描くためには、デッサンだけは勉強しておいた方がよい。就職してからでも練習を。



©天龍村アートプロジェクト

みやかわ ひろあき

4期生・語学(英語)／陸上部。高校講師などを経て俳優となる。現在、都内を中心に毎月1回行われる舞台の定期公演のほか、テレビドラマ、Vシネマなどに出演。3月には下旬放映のTBSスペシャルドラマにも。最新の出演情報は、公式ブログ「売れない役者の熱れないつぶやき 役者・宮川浩明の徒然なるまま」をチェック!

<http://miyakawahiroaki.web.fc2.com/>

071A2217

33歳

某映画のオーディションで俳優A氏に出会う

32歳

6年間勤めた教職から退き
少年時代からの夢であった
「役者」へ転向を果たす

25歳

埼玉県公立高校で
世界史担当の
非常勤講師となる

19歳

伊奈学園卒業後
一浪して大学に進学

INAGAKU STYLE

多様な人生を演じる 職業としての役者という道

少年時代から暮る
役者への憧れ

私が「役者」という仕事を初めて意識したのは、中学生くらいの頃。それこそ、ジャッキー・チェンの映画が好きだったのが、たくさん映画やドラマを見ているうちに、「多様な人生を演じる役者という仕事を意識しはじめたんです。もちろんそれは、子供なりの漠然とした夢でしたけれど。

高校を卒業して大学に入ったのも、具体的な目的があったわけではなく、人生の時間の猶予が欲しかったから。この頃も役者への夢みたいなものはありましたが、もともと映画やテレビドラマへの関心からです。から、舞台や劇団とか、小劇場なんかに関わるということもありませんでした。だから大学時代は、ひたすらバイトです。しかし卒業後のことを考えて、資格ぐらい取っておくかと……。でも、資格といっても大学では教職くらいしかないんですよ。ですから大学卒業後も2年間はフリーター。そんな中、病欠で1か

月間限定の非常勤講師という話があった、学校の先生になりました。しかし我ながら、ドラマチックじゃない経歴ですね。(笑)。

役者としての自分に
商品価値があるのか?

その後、非常勤から1年契約の常勤講師となり、いくつか学校を転任しました。結局は「来年は講師の仕事がない」ということで……。それじゃあ役者になるかと。夢の実現といった大きな決断というよりも、「自分というキャラクターを使って、何かができるのでは?」というような感じでしたね。

その後、映画のオーディションで、ある俳優さんに出会い、2年間ほど個人的な付き合いを通して、役者のイロハを学びました。この方に教えられたのは、「自分という「役者」に商品価値があるのか?」ということ。職業としての役者という価値観ですね。そういう意味で、僕は職業的な役者でありたいと思っています。ですから自分の仕事については「俳優

業界で言うところの宣材写真。渋〜く決まっています



取材後まで映画談義に花が咲きました



photo by TARO TAKESHITA

優「というよりも、職人的な香りのする」役者」と表現したいんです。ブログのタイトルにもしています。が、今はまだ「売れない役者」という立ち位置。けれども、元々40歳までに役者で食べていけるように思っていましたし、今年38歳を目前に、食っていける手ごたえはあります。一番好きな役者さんですか?やっぱりロバート・デニロかな。職人的な役者として、あこがれであり、目標でもありますね。

text by TAKESHI SENUMA

NEXT STAGE

伊奈人 便り

新たな門出の春 僕も希望に満ちています

齋藤 愛さん 2004年度卒業

さいとう めぐみ

19期生・語学(英語)／ハウス会長・学園生徒会長を歴任。得意の英語を活かし大学進学を考えていたが、本当に「やりたいこと」を考えた結果、専門学校に進学することを決意。この春、ニットデザイナーとして就職。

一台数百万の機械を扱う
最新技術を習得した3年間

僕が文化服装学院へ進学したのは「服が作れるようになりたい」という単純な動機でした。実際、1年生では自分の手で縫い針を動かす事にはじまり、服作りの基礎をたたきこまれます。3年間で大きな出来事といえば、ホールガールメント(無縫製ニット・写真上)との出会いが衝撃でした。コンピュータプログラムによる機械編みで、ニット製品が立体の完成形で自動的に出てくるのです。これがニットデザイン科を専攻するきっかけとなりました。

ニットは奥が深く、糸の素材や編み方で表情が変わります。ニットのデザインには、毛糸作りから仕上げ加工まで技術面を熟知している事が必要なので、就職後は一流のニット職人を目指します。そして将来はブランドを担えるデザイナーになるのが目標です。

手編みと機械編みで作った卒業制作のニットコート



コンテストでクラスメートと共同制作した作品。優秀賞を受賞しました